

見つけよう！内原のよさ

○ 調べた理由

わたしの曾祖父が、義勇軍の先生をしていたと聞いて、どんなところで何をしていたところか調べてみようと思いました。

○ 研究の進め方

- ① くわしい人に話を聞く。(祖母)
- ② 資料館に行き調べてみる。

☆ 義勇軍とは？

① いつごろの話？

昭和13年1月～昭和20年

② どんな目的でつくられたの？

日本のわか者が広い土地がたくさんある「満州」に行って、そこで米や野菜を育てたり、牛や馬などをかたりして、村をつくり、満州の人と協力してくらすため。日本は、戦争中で、食べ物がないので、こまっていたので、食料をふやそうとしたため。

③ どんな人たちが義勇軍に入ったの？

日本全国の15～19才までの人たち

④ 内原との関係は？

加藤完治さんが校長をしていた国民高等学校が内原町にあったため、内原町に建てた。

⑤ その後？

日本が戦争で負けてしまい、義勇軍はなくなった。戦争で死んだり、が死んだり、とう死したり、たくさんの方がなくなった。

○ ここが自慢！

満蒙開拓青少年義勇軍内原訓練所があったよ！



水戸市郷土史
义勇軍資料館

いろいろな資料があります。

満蒙開拓青少年
义勇軍内原訓練所の碑



復元された
日輪兵舎

生徒たちが、ここで勉強したり生活していました。60人入れたそうです。これが、325個ありました。



☆ 祖母にインタビュー

「私の父(曾祖父)は、戦争で病気になって日本にもどってきました。それから、義勇軍で牛やブタ育てる畜産の先生をしていました。中学を卒業したばかりの少年たちが、ふるさとをはなれて、内原に来ていたそうです。家庭の味がこいしくて、ご飯を食べにきていたそうです。さびしくて、つらくて逃げ出す子もいたそうです。内原にある、武器池も、訓練所の生徒さんがほってくれたそうです。」

☆ 加藤完治さんについて



日本国民高等学校の校長で満蒙開拓青少年義勇軍内原訓練所の所長になり、生徒といっしょに満州にわたった。日本国民高等学校は、現在の日本農業実践学園となっている。

○ まとめ

訓練所で、多くの人が人が学んでいたが、戦争にまぎこまれて、本当に大変だったと思いました。平和であると言うことが幸せだと思います。戦争での悲しみを伝えていくことが大切だと思います。